



読字 原田 親

No. 654

2011/11/25

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒110-0055 東京都千代田区
西船場1-1-1 東洋大学ビル3階

日中友好協会
岡山支部
〒730-8258
岡山市東区3-8-30 511
TEL: (086) 272-3010
郵便番号11所
01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒712-8914
倉敷市連島中央1-8-1
(宮地方)
TEL: FAX: 0860 446-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhong.web.infoseek.co.jp>
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp



日本語教室7周年のつどい

竹内ヒロ子

平成23年11月13日(日)午前10時から高島公民館で中国帰国者の日本語教室岡山市連絡協議会開講7周年記念行事がありました。参加者は44名でした。

昨年までは講師陣が中心となつて進めていきましたが、一歩前進するべく、本年から実行委員会に受講生にも参加してもらうようにしました。準備段階から当日の運営まで、講師と受講生が協力しあつて計画を進めてきました。当日の総合同会は講

師の井上さんでしたが、受講生の高杉さん、篠原明さん、益田百合子さんにも一緒に司会を担当してもらいました。

まず、高杉さんによる二胡の演奏、次に益田俊幸さんによるハーモニカ演奏がありました。

続いて、各教室による出し物の発表がありました。寸劇あり、歌あり、紙芝居あり、作文発表あり：と練習に練習を重ねた出し物が続きました。

特に西遊記の寸劇 金角・銀角の段では、衣装、小道具、大

道具まで用意され、名優たちの熱演が繰り広げられました。

クイズコーナーでは、いろいろな漢字のなぞなどが出されました。難しいものから簡単なものまでありました。皆さんも考えてみてください。れいぞうこの中にいる動物は? かばんの中にいる動物は?は何でしょう?

盛りだくさんの内容で、2時間半があつたという間に経ってしまいました。私は今回が初参加でしたが、帰国者のみなさんが一生懸命に日本語を学ぼう、話そうとされている姿が一番心に残りました。これからもみなさんの日本語学習のお手伝いを続けていこうと思います。



立っている人 左から佐々木さん 篠原明さん

『その時私は……東北大震災』

ことし第60回全国大会で成立が認められた宮城県の青葉支部から、表記の文集が送られてきました。すてきなスケッチ11枚と12人の手記がのっていて、たとえば、阿部兼也さんは



A4版

一 中元輝夫著 『海に墓標を』(文芸社¥1,300)を読んで

語りつぐ戦争

第一章 帰らなかつた遺骨

37才で戦死した、お父さんの面影をもとめて、73才の中元さんが、感動の記録を出された。女優の景色とも多さんの推薦のことばにあるように、私たちの戦争はおわっていないのです、いまも。」

長かった昭和の15年戦争がおわり、2週間がすぎた。出征していた父の戦死公報 比島方面三テ戦闘ニ於イテ戦死スが入ってきた。白木の箱のすみには黒い炭のようなものと石ころひとつ。「これは父ではない、父は帰っていない」と中元さんは思う。それから1年余りして、お母さんもなくなり、子供5人だけの、それはそれは、きびしい生活が始まる。父さん、母さんが生きていくれたらな。

第二章 父の面影

1982年4月、交通事故で重傷をおい、危篤状態の中元さんの夢枕にたつたお父さんは、びしよぬれの姿。もしかしたおとつあんは海で死んだのでは? そうです。お父さんは広島

宇品港から商船で出発したことがわかつた。苦心のすえ、ついにその音羽山丸は、ベトナム沖で魚雷攻撃にあい沈没したことをつきとめる。戦死公報の比島方面ではなかつた。中元さんは言う、国民を戦地に送り出し、遠い異郷の地での死を強いた国家。その国家の態度として、40年もの間放置してきたのは、あまりに無責任ではないか、行こう。ベトナムへ」

第三章 ベトナム慰霊の旅

岡山県に 日本ベトナム友好協会」を立ち上げた中元さんは、旅の準備をはじめた。兄弟姉妹みんなの思いを届けようと、2001年の初め、兄弟達の手紙をもつて出発。父がなくなつた海岸に膝まづき、手紙を読み東に火を付けた。あの沖合に、また来るから、きつと行くからと。

本書の推薦人のひとり佐藤さんから、ベトナム慰霊碑をとお考えていた中元さんに、思いもよらない手紙。ベトナムに慰霊碑を建立するということは、犠牲を強い加害者」のために、ベトナム側が土地を提供し、その後

の管理も引きうけることも意味する。慎重に」という趣旨だ。(2面の別掲資料参照) 中元さんは 戦争を日本が引き起こしたという事実は、その苦しみを 加害者」と 被害者」という二つの立場にひきさいているのである」と書き、戦争責任ということを改めて考えさせられた」と。そしてアジア各地の従軍慰安婦の問題を、そのひとつと考える。

2010年、二度目のベトナム。日本人一行5人は、クアンガイ市の市長、海軍関係者、海域探査のスタッフなどに歓迎され激励をうける。ベトナムの人たちの協力に感謝の念は語りつくせない。通訳のことに市長が涙した。アメリカとの戦争では「フンミ村虐殺事件」が、このクアンガイ省でおきている。

エンジンをつめた船の上に静寂が流れる。やつと来たよ おとつあん、66年皆さん音羽丸の一一九人の方々、冷たかつたろ うな。66年の歳月を伝えきいたベトナムの人々、この大輪の花は一輪一輪66本さしてくれたいものという。青い海のうえに大きな赤い花輪が映える。

竹内和夫

真田紀子

那須正幹さんの講演『ズッコケ三人組』平和を語る」というタイトルでしたが、何のこともやら皆目わかりませんでした。

組」のテーマには戦争時代は書かなかった。書けなかったのだと思います。

ご自身が広島で被爆体験されていて、中学の時同級生の女の子が、白血病で亡くなったそうです。また、結婚や子供が生まれるたびごとに、何んともいえない想いを感じ続けたことをお話しになりました。

50巻にもなる『ズッコケ三人

中国からの便り

日中友好のかた、

残留孤児の支援者のみなさんへ

黄艶萍です。お久しぶりで。3月12日中国に帰国してからあつという間に9カ月間が経ちましたね。皆さんお元気ですか。ここで、私の近況をご報告します。

いま勤めている会社は日本大塚化学の中国での現地企業であります。テラセスというプレーキの摩擦剤を作っています。世界各国に販売しています。

11月から増産のため二次建設もはじまっています。

そのほか、強化樹脂も作っております。このタイプの樹脂は高い強度と強い耐熱耐紫外線

でもいる子供たちが子供たちだけで考えて周りの状況を変えていく、主人公達は年をとらない、精神的にも成長しない、6年生のまま登場するそうです。だからこそ、その時代時代の子供たちから生の感想が届くよう、今の時代はあんな友達がほしい」という感想が届くようです。

性が特徴で、LED、プリンター、冷蔵庫などに広く使われています。

私は技術開発部に配属され、日本人の技術社員の下で仕事をしています。

管理は完全に日本式で、日本の経験を生かし私は入社してすぐ仕事に慣れました。

技術のほか、通訳を通じて、日本人スタッフと中国人スタッフの間の架け橋の役割もしています。

今の仕事も日中友好に貢献していることを自慢しています。ただ、最近仕事が忙しくて、

小林軍治の

フランス(法国)滞在記

バイリンガル心(用两种语言的人)

心は、現在4才半です。娘は、心が生まれてから今日まで、日本語で話しかけています。心に日本語が話せるようになってほしいと願っています。もうひとつの理由は、娘のフランス語がいかにかに流暢で、専門用語が理解できて、ネーティブではないからです。心には、父親であるミカエル君が、フランス語で話しかけています。

が、娘やジジ・ババが話す日常会話は、だいたい理解できています。しかし、二年前まではだめ・あぶない」と私たちがよく使うことばは話せませんが「いただきます。」「はい。」「となくなり話せる言葉はかぎられていました。

家族のことをちよつと怠っていたと感じています。娘との会話時間も少なくなったと反省しています。そうですね、仕事と家族の両立、難しいことですね。でも、うまくできるように頑張ります。

心は、土曜日の午前中は、日本語を教えてくれるサヨン補習授業校に通っています。ここで習った日本語の歌をよくきかせてくれました。

カルタ取りをしています。父親のミカエル君より心のほうが上手です。



パパ、心、ミカエル君

声(日本語)と場所、物、人の動作などと結びつけて覚えているようです。今回も時々、玄關口で交わされる会話「行ってきます。いつてらっしゃい。」「ただいま、かえりました。おかえりなさい。」が反対になることがありました。まだ、フランス語を日本語に、またその逆は、ほとんどできません。私たちは早く通訳ができるようになればと楽しみにしています。

ホーおじさんのこと

11月15日11時すぎ、岡山駅東口で国民救援会の「冤罪をなくそう」という宣伝をしていました。かわいい女性にチラシを、「わたしよめません」

T「? 中国人ム?」

「??ベトナム人ですから」

T「それなら、ホーおじさんしてますね。」

「ええ、よく」

T「1940年に日本軍が北ベトナムに侵入して米をうばったので、200万人のベトナム人が餓え死にしたら、ホー・チ・ミンの独立宣言にありますね」

「はい、よく知っていますね。がんばってください」

T「ありがとう」

竹内和夫

震災募金 合計¥115,240に

第6回の募金¥12,718を11月14日に本部へ送りました。まだまだ大変のようです。ひきつづきご協力お願いいたします。

別掲資料

ヴェトナム民主共和国独立宣言(一九四五)

碧波文庫、人権宣言集」一九五七

三四四ページ、以下の稲子恒夫氏による解説と翻訳から

「この宣言は、一九四五年九月二日、ハノイで、ホー・チ・ミン(竹内註、漢字では胡志明)を主席とするヴェトナム民主共和国臨時政府の名で発表された。

【上略】一九四〇年の秋、日本のファシストたちが連合国に対する戦闘の目的で、新しい軍事基地をつくるためインドシナに侵略してきたとき、フランスの植民地主義者たちは、彼らの前に膝を屈し、われわれの国土をわれらに引きわたした。

この日から、われわれ人民は、日本とフランスの二重の支配をうけてきた。そのため、われわれは今より一そうくるしくなり、一そうみじめになった。その結果、去年の終りから今年のはじめにかけて、カング、トゥリ(Quang - Tri)から北ベトナムにかけて、200万をこえるわれわれの同胞が餓え死にした。(下略)」

次回の新聞発送作業は12月1日(木)午後1時半、民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

小林和夫、竹内井垣、竹坪三垣